

科目名	第二言語習得論特講	担当者	タジマ 田嶋 ミチオ 倫雄	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本講座は、第二言語習得論の多岐にわたる理論と研究結果を概観し理解を深め、基本的なデータ収集と調査による研究手順と、履修者各自の研究計画の作成の修得により以下の能力を身につけることを目的とする。</p> <p>豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】</p> <p>第二言語習得論の学際的で多様な側面をもつ理論に照らし合わせながら、外国語の習得に関する一般的見解を概観しつつ、学術的データからの証例を検討するため、自立した研究者としての自ら学び考える力を修得する。さらに外国語研究および教育における現状を理解し、説明する力を養う。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】</p> <p>履修者は自ら課題範囲内から研究題材を選択し、文献研究を通して現在の外国語教育の問題点の発見につとめ、論理的思考のもと解決策を記述する。さらに、実施可能な調査・研究の計画書および報告書を試作し説明することができる。</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学修媒体等】</p> <p>履修者同士の manaba 上での議論と課題に対するフィードバックを経て協働力とコミュニケーション能力を磨く</p> <p>【学修方略 (LS) と学修時間】</p> <p>レポート課題を提出して形式のおよび内容的な指導を受ける。その指導をもとに課題を加筆・修正して再提出をする。学習の振り返りと指導に基づく加筆・修正の繰り返しを通して段階的にレポート課題を仕上げしていく。</p> <p>各レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。</p> <p>教材の学修： 20 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：10 時間</p>		
スケジュール	<p>前期：レポート課題 1 初校締切（5 月末）、最終稿締切（前期締切日） レポート課題 2 初校締切（6 月末）、最終稿締切（前期締切日） 後期：レポート課題 1 初校締切（10 月末）、最終稿締切（後期締切日） レポート課題 2 初校締切（11 月末）、最終稿締切（後期締切日）</p> <p>初校締切の変更を要する場合は、なるべく早めにスケジュール調整の依頼を担当者までメールで通知すること。修正による再提出を指導された場合は、最終稿を学事歴で定められた日までに提出すること。</p>		
成績評価	種別	割合	評価基準
	レポート	60%	レポートの最終稿の形式（構成、体裁、参考文献など）や内容（論旨、独創性、考察など）を評価する。
	観察記録	40%	manaba 上にて適宜実施予定のアンケートやクイズへの参加、レポート課題の提出期限の厳守、レポート添削後の修正について評価する。
履修者への要望	メールや manaba のマイコースにて随時通知する。		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	著者名： Patsy M. Lightbown and Nina Spada (著) 教材名： <i>How Languages are Learned</i> . 4th ed. Oxford University Press, (2013) ISBN:978-0-19-454126-8 £24.50 3,900円+税 第二言語習得論を基礎から学び, 自分の興味ある研究分野の方向性を探る上で参考になる入門書といえる。第一言語習得からはじめ, 第二言語習得の特徴, 理論, 調査結果など多くの例が提示されていて, 全体を概観でき, 意欲的な履修者にも読み応えのある内容である。
参考図書	①白井恭弘 (著) 『外国語学習の科学—第二言語習得論とは何か』 (岩波書店, 2008年) ISBN:978-4-00-431150-8 720円+税 ②Steven Brown & Jenifer Larson-Hall (著) <i>Second Language Acquisition Myths</i> . University of Michigan Press, (2012) ISBN:978-0-472-03498-7 2,759円+税 10
履修上のポイント	基本教材や参考図書を中心に, また掲載されている引用文献なども参考にしながら, 焦らずに熟読すること。担当教員と連絡を取り, 必要な場合には内容や進度について相談すること。
レポート課題 1	教材 <i>How Languages are Learned</i> の Chapter 1 と 2 を読み, 外国語を教える教師にとって第二言語習得論を知ることの重要性を日本語 3,000 字程度で述べること。 留意点 : 教材の引用, 自分の考察, 今後の研究にどう役立てられるかも加えること。
レポート課題 2	教材の Chapter 3 を読み, 学習の個人差について興味のある事柄を選択し, また学術雑誌から査読付き研究論文を 3 本以上 (英文の論文 1 本以上) 選び熟読し, その内容を簡潔にまとめること。 留意点 : 先行研究をまとめたもの, 自分の考察, 今後の研究にどう役立てられるかも含めて 3,000 字程度で述べること。

基本教材 2	
教材の概要	著者名： 教材名： 教材 1 と同じ 教材 1 と同じ
参考図書	①セリガー, ハーバート&ショハミエ, イラーナ (著) 『外国語教育リサーチマニュアル』 (大修館書店, 2001年) ISBN:978-4-46-924457-1 2,800円+税 ②馬場今日子&新多了 (編) 『はじめての第二言語習得論講義—英語学習への複眼的アプローチ』 (大修館書店, 2016年) ISBN:978-4-469-24608-7 1,900円+税
履修上のポイント	基本教材や参考図書を中心に, また掲載されている引用文献などを参考にしながら, 焦らずに熟読すること。担当教員と連絡を取り, 必要な場合には内容や進度について相談すること。
レポート課題 1	教材 <i>How Languages are Learned</i> の Chapter 4 と 5 を読み, 第二言語学習を説明する理論と, 学習者の学習を観察することについて 3,000 字程度で述べること。 留意点 : 教材の引用, 自分の考察, 今後の研究にどう役立てられるかも加えること。
レポート課題 2	教材の Chapter 6 と 7 を読み, 教授法の提案と通説について興味のある事柄を選択し, 学術雑誌から研究論文を 3 本以上選び (英文の論文 1 本以上), その内容を簡潔にまとめること。 留意点 : 研究計画書 (想定も可) を含め, 学術論文の体裁を意識し 3,000 字程度で作成すること。

基本教材 1

第 1 回	第二言語・外国語学習の通説と各自の経験との比較
第 2 回	教材 1 第 1 章
第 3 回	教材 1 第 2 章
第 4 回	第 1 & 2 章から課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 5 回	レポート課題 1 初校の作成
第 6 回	レポート課題 1 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 7 回	レポート課題 1 ピアフィードバックによる完成稿の作成
第 8 回	教材 1 第 3 章
第 9 回	教材 1 第 3 章 オンラインピアディスカッション
第 10 回	教材 1 第 3 章 課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 11 回	教材 1 第 3 章 課題を一つ選び査読付き学術論文の検索と要約
第 12 回	教材 1 第 3 章 課題を一つ選び査読付き英語学術論文の検索と要約
第 13 回	レポート課題 2 初校の作成
第 14 回	レポート課題 2 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 15 回	レポート課題 2 ピアフィードバックによる完成稿の作成

基本教材 2

第 1 回	教材 2 第 4 章
第 2 回	教材 2 第 5 章
第 3 回	教材 2 第 4 & 5 章から課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 4 回	レポート課題 1 初校の作成
第 5 回	レポート課題 1 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 6 回	レポート課題 1 ピアフィードバックによる完成稿の作成
第 7 回	教材 2 第 6 章
第 8 回	教材 2 第 7 章
第 9 回	教材 2 第 6 & 7 章 課題を一つ選び学術論文の検索とその報告
第 10 回	教材 2 第 6 & 7 章 課題を一つ選び査読付き学術論文の検索と要約
第 11 回	教材 2 第 6 & 7 章 課題を一つ選び査読付き英語学術論文の検索と要約
第 12 回	レポート課題 2 初校の作成
第 13 回	レポート課題 2 添削指導による推敲・修正稿の作成
第 14 回	レポート課題 2 ピアフィードバックによる完成稿の作成
第 15 回	第二言語・外国語学習の通説と各自の経験との比較の再考